

# 付加帯形成過程の地質モデルを用いた検討

## Geologic Modelling of accretionary process

# 山田 泰広[1]; 植田 諭史[2]; 兼田 心[3]; 松岡 俊文[4]

# Yasuhiro Yamada[1]; Satoshi Ueda[2]; Kokoro Kaneda[3]; Toshifumi Matsuoka[4]

[1] 京大・工・社会基盤; [2] 京大・工・社会基盤; [3] 京大・工・社会基盤; [4] 京大・工・社会基盤

[1] Civ. Earth Res. Eng., Kyoto Univ.; [2] Department of Civil and Earth Resources Engineering, Kyoto Univ; [3] Civil and Earth Resources Eng., Kyoto Univ.; [4] Kyoto Univ

<http://earth.kumst.kyoto-u.ac.jp>

プレート沈み込みに伴う付加帯形成過程をモデル化し、アナログスケールモデル実験と数値シミュレーションを用いて検討したので、報告する。

これまでの検討から、脆性破壊で特徴づけられる地質帯の変形は粒状体材料で近似できることが分かっている。そこで、実験では乾燥砂とマイクロガラスビーズを、シミュレーションでは粒子法的一种である個別要素法を採用して、単純なプレート沈み込みに伴う付加帯形成過程を再現し、両者の結果を比較・総合した。

数値シミュレーション・モデル実験ともにそれぞれポスター発表するが、本講演では両者の結果を総合して、付加帯形成過程に対するモデル研究の現況と今後の課題について紹介する。